

令和6年3月15日

世田谷区立東深沢小学校
校長 佐々木 克二 様

世田谷区立東深沢小学校
学校関係者評価委員会

学校関係者評価委員会報告書

1 調査の実施方法

- (1) アンケートの作成・配布（11月下旬）
＜対象＞・児童（全学年） ・保護者（全学年・児童数） ・地域（町会/商店会/その他）
- (2) アンケート実施（紙面回答）回収（締切り：11月28日）
- (3) 校内においてデータ集計作業（12月8日完了）
- (4) 職員会議で、集計結果に関する数値傾向からの課題を共有した。（令和6年1月5日）
- (5) 学校関係者評価委員会（令和6年1月13日）
令和5年度学校関係者評価アンケート結果を校長より報告。集計結果の概要を確認し、検討事項等について共通理解を図った。
- (6) 学校関係者評価委員会（令和6年1月31日）
各委員より、集計結果の数値傾向を踏まえ意見を出し合い、課題を検討した。
- (7) 学校関係者評価委員会（令和5年2月上旬）
委員会にて指摘のあった点を取りまとめ、修正・追加・削除を行い、報告書の原案を作成した。
- (8) 学校関係者評価委員会（令和6年2月17日）
学校運営委員会にて、学校関係者評価概要説明。
各委員と報告書の最終的な確認を行った。

2 アンケート結果の分析

○ 保護者回収率

今年度 90.9% 昨年度 47.5% 一昨年度 90.9%

○ 地域回収率

今年度 65.9% 昨年度 75.6% 一昨年度 87.2%

学校関係者評価委員会からの指摘項目（改善された点も含む）

学校の判断でアンケート方法が一昨年度の形式に戻ったことは歓迎すべきことである。保護者や地域の方々の意識が一定の正確さをもって反映され、客観性の高いアンケート結果が期待できるからである。保護者の回収率回復にその効果が表れている。一方で地域の回収率は下がっている。

【令和5年度 学校の重点目標の達成について】

※ アンケート結果のパーセントは、A（とても思う）B（思う）の評価の合計を示す。

《1》重点目標に「思いやりのある やさしい子」を位置づけ、気持ちのこもったあいさつがあふれる学校づくりに取り組みます。

◎ 保護者・児童・地域のアンケートより

【保護者】 私の子どもはよくあいさつをしている。

79%

【児童】 私は、友達や先生・主事さんなどにすすんであいさつをしている。

82%

【地域】 本校の子どもたちは、よくあいさつしている。

90%

学校関係者評価委員会からの指摘項目（改善された点も含む）

児童の肯定的評価は82%で高い評価を得た。保護者の評価は昨年度より5ポイント高く79%と高評価であった。地域からの評価が最も高く90%であった。あいさつ運動やこども見守りたいの活動といった地道な活動が根付いている結果だと思われる。あいさつは大事なので、今後もこの取り組みを継続してほしい。

《2》「教員のいないところには、子供はいない。子供がいるところには、教員がいる。」を教職員の安全管理目標とします。

◎ 保護者・児童・地域のアンケートより

【保護者】 学校は、安心・安全な学校づくりを進めている。

91%

【児童】 私は、安全に気を付けて生活している。

88%

【地域】 学校は、安心・安全な学校づくりを進めている。

97%

学校関係者評価委員会からの指摘項目（改善された点も含む）

児童、保護者、地域どの評価者も極めて高い評価であった。引き続き安全・安全な学校づくりをしてほしい。

《3》「いじめ0（ゼロ）」をめざして、いじめ未然防止・早期発見・解決に取り組みます。

◎ 保護者・児童のアンケートより

【保護者】 私の子どもは、「いじめをしない させない 許さない」ができています。

93%

【児童】 私は、「いじめをしない させない 許さない」ができています。

85%

学校関係者評価委員会からの指摘項目（改善された点も含む）

「いじめ」に関しての肯定的評価は児童 85%（A 評価 58%+B 評価 27%）、保護者 93%（同 43%+同 50%）と高くなっている。今年度は特筆すべき状況はないとのことなので、引き続き適切な指導を継続していただきたい。

《4》「ひがしのスタンダード2023」を策定し、学習・生活指導の充実に取り組みます。

◎ 保護者・児童のアンケートより

【保護者】 本校は、教員が指導した学校での過ごし方やルール（スタンダード等）について子どもが理解している。

86%

【児童】 私は、学校のきまり（スタンダード等）を守って、行動している。

81%

【保護者】 本校は、学校での過ごし方やルール（スタンダード等）について子どもに考えさせる指導をしている。

83%

【児童】 学校のきまり（スタンダード等）を守らない児童に先生は注意している。

76%

学校関係者評価委員会からの指摘項目（改善された点も含む）

「児童の行動」に関する肯定的評価は児童 81%、保護者 86%となり、学校のきまりなどの学校生活のルールや学習上の決め事に対する規範意識は高いといえる。ただし、教師の指導面での児童の評価が若干低く 76%である。指導の一貫性や公平性については常に留意していただきたい。

《5》緊急時の対応体制の強化を図ります。

◎ 保護者のアンケートより

【保護者】 本校は、自然災害時の対応を子どもや保護者に提供している。

93%

学校関係者評価委員会からの指摘項目（改善された点も含む）

保護者からかなり高い肯定的評価(93% A<B)を受けている。能登半島地震を受けて、今後も災害に対する意識は高まることが予想される。さらに保護者や地域との連携を密にして災害への備えをしてほしい。

《6》「探究学習を通して深い学びをつくる」をテーマに校内研究に取り組みます。

◎ 保護者・児童のアンケートより

【保護者】 本校は、子どもが考えたことや課題を解決することを大切にした授業を行っている。

87%

【児童】 先生は、課題（めあて）について自分で考えたり、友達と考えたりする時間を授業中に取っている。

91%

【保護者】 本校は、子どもが考えたことを話し合ったり、発表し合ったりする機会がある。

92%

【児童】 授業では、考えたことを話し合ったり、発表し合ったりする機会がある。

91%

学校関係者評価委員会からの指摘項目（改善された点も含む）
2項目とも90%以上という児童の肯定的評価である。保護者評価も追随している。自らが学習の目標設定を行い、仲間と協働して学習に取り組む様子が想起され、主体的で深い学びの場が設定されていることが理解できる。

【各アンケート項目について】

1 学習指導について

児童・保護者ともに肯定的評価が高い。板書・タブレット両方を使いながらも児童にとって楽しい学習が展開されている。保護者の数値も高いが、授業は児童が受けているので、保護者はどこまで把握できているか。個に対する指導を基にしていたり、道具（教材・教具）の使用を工夫したりしているので、全体的に肯定的評価が高いと考えられる。

2 生活指導について

保護者の「本校は、学校での過ごし方やルール（スタンダード等）について子どもに考えさせる指導をしている」の肯定的評価が昨年度より9ポイント高い83%に対して、児童の「学校のきまり（スタンダード等）を守らない児童に先生は注意している」は肯定的評価が昨年度より5ポイント低い76%となり、指導の一貫性や公平性について留意する必要がある。指導を要する場面では児童の納得が得られるように丁寧に説明するなど、児童に寄り添った指導を今後も願いたい。

3 学校行事について

学校行事が通常に戻ってきており、運動会や音楽会は感動的であった。児童の「学校行事が楽しい。」は肯定的評価が93%、「学校行事は、達成感がある。」は86%となり、児童が達成感を味わっている。本番に至るまでのやる気も継続して取り組んでいて、高く評価できる。先生方の努力が伺える。学校行事での先生方の優しい眼差しや笑顔から、達成感や楽しさが伝わってくる。

4 キャリア教育について

児童の「自分の生き方や将来のことについて、考える授業がある。」の肯定的評価が昨年度より7ポイント低い57%、保護者の「本校では、子どもの生き方や将来のことについて考える授業をしている。」の肯定的評価は昨年度より14ポイント高い65%となったが、「わからない」と回答した保護者は18%と比較的多いといえる。わざわざキャリア教育について学習したことを知らせるために尽力する必要はないが、知られていないことが低い数値につながっていると考えられる。みしまの森学舎をもう少し活用することも必要ではないか。今年度は夏の個人面談でキャリア・パスポートを提示したが、それが保護者にとってのキャリア教育という理解につながっていない。また、児童にとっても「これがキャリア教育」と理解している児童は少ないと思われる。それでも肯定的評価の数値は決して低くない。

5 先生について

児童の「先生たちは、丁寧に指導してくれる。」の肯定的評価が93%、保護者の「本校は、丁寧に指導している。」の肯定的評価は89%となり、授業を受けている児童の評価が高いのは歓迎できる。保護者の評価は自身の子どものだけを見て評価しているという側面があるにしても、丁寧な指導がなされていると捉えられる。

また、児童の「先生たちに相談できる。」の肯定的評価が81%、保護者の「本校は、子どものことを相談しやすい。」の肯定的評価は昨年より4ポイント上がって85%となった。「相談できる」ということは教員との信頼関係が構築されていることを示している。ただし、否定的評価が児童に13%、保護者に11%いることに目を向け、懸念を抱いている児童、保護者が一定数いることを忘れずに引き続き丁寧に対応していくことを心掛けてほしい。

6 全般について

「私は塾で学習している」の項目がなぜ入っているのか。その意図や目的、その肯定的評価が高いとどうなるのかなど、不明である。疑問である。

学校生活について、児童の「学校生活は、楽しい。」の肯定的評価が90%に対して、「学校が好き。」の肯定的評価は83%であった。「学校が楽しい」から、「学校が好き」な訳ではない。また、「学校が好き。」の否定的評価が13%という結果にも目を向ける必要がある。

学び舎について、児童の「学び舎の中学校に行ったり、中学生が来たりする機会がある。」の肯定的評価は44%にとどまり、小中連携は、児童が自らできることではなく、設定されて初めて「行き来」ができると考える。

7 学校からの情報提供について

地域の「学校からのお知らせ学校だより」などにより、学校の様子が分かる。」の肯定的評価は100%で、地域からの肯定的評価が高いが、「先生紹介号」を地域に配布できないかという声も聞かれる。肯定的評価が高いのは、学校だよりやホームページ等で情報を発信している結果ではないか。

学び舎についての情報提供について、保護者の「学び舎の区立幼稚園・中学校についての情報が提供されている。」の肯定的評価は78%、地域の「学び舎の活動について、情報が提供されている。」の肯定的評価は75%となり、学び舎に関しては数値が低くなってしまふ。小中との連携によって、中学校に入学する際の不安や心配が減ったという中学生が多いように感じる。概ね情報提供は行われている。

8 学校運営について

保護者の「本校は、保護者に学校の重点目標を伝えている。」及び「校長をはじめ教職員は、協力して教育活動に取り組んでいる」の肯定的評価は共に89%と高い数値となっている。管理職をはじめ、教員たちの意欲が数値に表れている。今後も継続して教育活動に取り組んでほしい。

9 家庭と学校の連携について

保護者の「私は、学校行事、PTA 活動や地域行事などにすすんで協力している」の肯定的評価が昨年度より8ポイント低い69%となった。PTA 活動が最近活発にできていない現状があるためではないか。参加する機会そのものが減少傾向にある。社会的な背景もある。約70%の肯定的評価の数値を「高い」と見るか、「低い」と見るか。「参加意識」と「協力意識」の違い。「協力」しているかどうかを問われると、低くなってしまっているのではないか。学校と家庭の連携としてみると、十分にできている。

学校重点目標について、保護者の「私は、今年度の重点目標を理解している。」の肯定的評価は65%であった。「本校は、保護者に学校の重点目標を伝えている。」の肯定的評価は89%と数値が高いものの、それを理解しているかについては数値が低い「子どもが通う学校が何を目指しているのか」について理解する努力が保護者に求められている。

10 地域との連携について

保護者の「本校は、地域に情報を提供している。」の肯定的評価は72%、「分からない」の回答が17%となった。保護者も地域の人であるという考え方もあり、保護者に対する情報発信と地域に対する情報発信はイコールの部分もある。

11 学校の安全性について

保護者の「学校は、安心・安全な学校づくりを進めている。」の肯定的評価が91%、地域の「学校は、安心・安全な学校づくりを進めている。」の肯定的評価が97%となり、保護者・地域ともに肯定的評価が高い。能登半島地震より以前のアンケート実施でこれだけ数値が高いのは歓迎できる。4月当初の校長による説明がしっかりなされ、理解されているといえる。

12 学校独自目標

「あいさつ」について、児童の「私は、友達や先生・主事さんなどにすすんであいさつをしている。」の肯定的評価は昨年度より7ポイント低い82%で、児童たちが自分たちのことを「あいさつをしている」とは思っていない。一方、地域の「本校の子どもたちは、よくあいさつをしている。」の肯定的評価は昨年度から11ポイント上がって90%となった地域の数値が高いのは、回答者に日常的に児童と交流のある方が多いからであろう。

「家の人とのコミュニケーション」について、児童の「私は、家の人とコミュニケーションがとれている。」の肯定的評価は89%と高い。また、児童が「私は、自分と友達を大切にしている。」の肯定的評価が95%と高いのは素晴らしいことである。自己肯定感、達成感、有用感を育てようとしている結果と考えられる。「あいさつ」は低学年からの積み上げが不可欠なのでこれからも粘り強く指導していただきたい。

「いじめ」について、児童の『私は、「いじめをしない させない 許さない」ができています。』の肯定的評価が85%、保護者の『私の子どもは、「いじめをしない させない 許さない」ができています。』の肯定的評価が93%となり、「いじめ」に関しての意識が数値に表れている。

自分の子だけを見るのではなく、学校としていじめがないことに対する数値として高い。

この学校独自項目に対してはAとBを個別に見る必要はなく、A+Bの肯定的評価として捉え、その数値がとても高いことから、学校組織としてのいじめ対応が機能していることが表れている。

3 総評

評価委員会のまとめが変更され、従来の目標だけでなく、アンケートのすべての項目に意見や指摘が加えられました。まとめられた数字から学校の状況は良好であり、特に重点目標についてはほぼ90%の肯定的な評価があります。学校と児童・保護者・地域が協力して各目標に取り組んだ結果、高い評価が得られたと考えられます。また、重点目標以外の項目に対する評価も高く、「ひがしの教育」への期待や信頼が高いことが分かります。

教員はアンケート結果を活用し、成果と課題を考察して改善点を見つけ、教育活動に生かしています。この努力が学校の実績を向上させ、子どもに対する丁寧な対応につながっています。学校からの積極的な情報発信も保護者の理解を深め、アンケート結果に良い影響を与えています。

昨年度はアンケート形式が変更されましたが、従来の形式に戻り、回収率の回復や信頼度の向上など、内容的・質的な改善が見られました。学校側の配慮と熱意に感謝します。

今年度はコロナ禍を乗り越え、学校生活が日常に戻りつつあります。学校行事の形も復活し、大いに盛り上がりました。子どもたちの喜びの声や笑顔が広がり、「学校が楽しい」「学校が好き」という声が増えたことは、委員全員の喜びです。

最後に、地域の皆様に感謝を表し、東深沢小学校の子どもたちと教育を温かく支えていただいていることに心からの敬意を表します。